

① 研究課題

深頸部膿瘍後の全国調査

② 研究等の目的・概要

目的:深頸部膿瘍は、進行すると嚥下性縦隔炎や敗血症などをきたし、嚥下性縦隔炎や敗血症などを合併し、降下性縦郭炎を合併した場合の致死率は40%と致命的となるため、急性期の治療に重点がおかれている。しかし、急性期治療後に約20%の症例で嚥下障害をきたすとの報告されており、そのリハビリテーションや嚥下機能改善手術の効果についても、少数報告はあるものの、まだ解明されていない点も多い。今回、深頸部膿瘍治療後の嚥下機能障害の全国調査を計画し、嚥下障害を併発した場合は該当症例の入院期間や摂食嚥下機能の予後、嚥下リハビリテーションと嚥下機能改善手術の効果についても検討する。

概要:岐阜大学附属病院及び調査協力機関で診療のために保管しているカルテ情報(患者背景、治療法、治療経過、転帰)、問診データ、検査所見(採血)、画像所見(CT、MRI、嚥下内視鏡検査、嚥下透視検査、膿瘍の部位)を検討する。各々の機関での検討においては、匿名化した情報のみをやりとりし、個人情報各機関で対応表を用いて管理する。

③ 主任責任者

橋本市民病院 呼吸器内科 部長 藤田 悦生

④ 研究期間

2022年1月20日～2024年3月31日

まで

⑤ 研究等の対象、実施機関及び実施場所

対象期間:2011年4月1日～2021年3月31日

研究期間:許可日～2024年3月31日

実施場所:橋本市民病院

⑥ 研究等における倫理的配慮、人権擁護及び個人情報の保護について

「深頸部膿瘍後嚥下障害の全国調査」への協力のお願い等の説明文書を利用する。

⑦ 本研究に関するお問い合わせ先

橋本市民病院 呼吸器内科 藤田 悦生

(TEL 0736-37-1200)